

令和5年度第3回まちづくり懇談会

「ふなボノ」

1. 日 時：令和5年10月7日（土） 午後3時30分～4時30分

2. 場 所：船橋市役所9階 第2応接室

3. 【議題】

一人一人が自分らしく輝くまち

①地域の人々と一緒に地域について楽しく学び、考える機会づくり

②地域の活動を支援する機会づくり

●団体

初めまして、ふなボノの上原と申します。私のほうで説明、進行を担当させていただきますと思います。

今日はこのような機会をいただきまして、ありがとうございます。ふなボノメンバー、とても楽しみにしておりました。提案テーマも用意はしてありますが、どちらかというと、ざっくばらんに、できれば市長と意見交換ができればうれしいなと思っております。よろしくお願いします。

○市長

よろしくお願いします。

●団体

■ 最初に、我々の自己紹介をさせていただきたいと思います。先にメンバーの自己紹介をさせていただいてから、団体の紹介もさせていただきたいと思います。

最初に私からですけれども、改めて、上原と申します。このふなボノでは共同代表という形で、本日同席の加藤さんと一緒に代表を務めております。私は今、本業はNPO法人サービスグラントというところに勤めています。渋谷にオフィスがありますが、そこで週4ぐらい働いていまして、

あとは副業というか、お金を生まない形の地域活動など、いろいろな活動をしておりまして、その中の1つがこのふなボノの活動になっております。

私自身は、市川市在住なので船橋市民ではありませんが、御縁があつて加藤さんたちと出会って、船橋で活動させていただいているというところになります。

ふなボノのワークショップをやる際に、子供も参加したりとかしております、今日は子供と妻と一緒に来ております。今日は楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

- 加藤でございます。この活動自体は六、七年前に、とある人から「いろんなことで関わっていかないと、いろんな社会課題が難しくなるのではないかな」と言われていたということにすごい感銘を受けまして、SIMULATION熊本というシミュレーション型の自治体経営ワークショップを知りまして、それを船橋の、このふなボノメンバーでつくったのが、この活動のきっかけになります。

SIMふなばし自体は、市民の方向けに10回程度行いまして、参加された方からは、「市の行政を知るようになった」、「いろいろな気づきがあった」という声をいただきました。それ以降も、ほかのワークショップを通じて、市民の方向けに開催をしております。活動を始めて六、七年になりますが中心メンバーと共に楽しく活動しております。

ふだんお話しできない方とお話することが楽しく、すごい価値のある時間だと思っておりますので、楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

- 小谷と申します。私は、加藤さんから今お話があった、SIMULATIONふなばしというゲームをつくろうというときに参加をさせていただいて、ゲームの中で取り入れたようなアンデルセン公園だとか、市のあちこちをちょっと歩いて回ろうだとか、そのような活動に参加をさせていただいている中で、今まで御縁がなかった船橋というまちが、海もあり、大地というか、山手のところもあり、非常に自然も豊かで、でも、中核市としてすごい人口がまだまだお若い、可能性があるまちだというところが

分かってくる中で、ふなボノの活動も継続していろいろ関わらせていただくということで今日参りました。よろしくお願いいたします。

- 鈴木と申します。ふなボノメンバーの皆さんとは今年の1月ぐらいから関わらせていただいています。10年ぐらい前に早期退職制度で退職し、ここにいる小谷さんと一緒に、地球温暖化や社会的厚生活動をしており、市川市で地球温暖化の勉強会を開きました。それから、ふなボノの目的と同じく、一人一人が生き生きと生きてもらいたいとの思いから、関係するNPOと高校でキャリアワークショップを開催するなどの活動をしております。

ふなボノのイベントに参加させていただいて、非常に意義深いと思ったので、私のほうも市川市の団体と一緒にやらせてもらったり、私がこちらに来て、一緒に活動させてもらったりしています。

今回、またとない機会で、船橋市に住んではおりませんが、市川市民から見た視点、狭い視点ではありますが、もしかしたら何か言えるかもしれません。よろしくお願いします。

- 藤原と申します。私は、ふなボノの正規メンバーではありませんが、以前、今、皆さんのお手元にお配りしたチラシのデザインを、私がプロボノという形でお手伝いさせていただいき、そのときから何回かイベントに参加させていただいているというようなお付き合いをさせていただいています。今回このような貴重な機会をいただけて、大変ありがたく思っています。よろしくお願いいたします。

- 加納です。生まれも育ちも、小中学校も船橋です。私は小学校6年生のときに児童記者をやっていて、ふなボノがSIMふなばしをやっていたときにその取材に来て、そこで知り合い、その後もずっと代表に関わってきています。あまりうまくお話ができませんがよろしくお願いします。

- 中澤と申します。私は、本業はカメラメーカーに勤めるサラリーマンですが、本業とは別に中小企業診断士の資格を持っています、中小企業診断士の商店街研究会で15年前から、私は東京が多いのですが、いろいろな商店街の支援をやっていました。その中で上原さんとワークショップで知り合いまして、そこで、船橋で、船橋市の未来を考えるワークショップ

を開こうと。そこに、役所の皆さんとか、市民の皆さんが合同で楽しんで勉強できるワークショップを開こうじゃないかということで、このふなボノが立ち上がり、それで少しずつ仲間を広げていったということです。

■ 初めまして、藤井と申します。休日やプライベートでふなボノの活動に携わっております。生まれから数年前まで、船橋に長く住んでいましたので、非常に愛着のある土地であり、そんな船橋への愛が自分の中にある中で何か活動をしたいなと思っていたときに、ふなボノのメンバーと出会い、活動を続けてきたという形になります。よろしくお願いいたします。

■ 土谷といいます。普段は、民間の企業に勤めていまして、そこで培ったスキルを何か生かせないかと思っていたところ、船橋での活動をされている上原さんと知り合うきっかけがありましたので、そこで活動を手伝わせてもらっているという形、プロボノワーカーという形で活動に参加させてもらっております。何か船橋のことに役立てるのではないかとということで、今日、参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

■ 本当に年代も幅広いですし、住むところも船橋だけでなく、むしろ、船橋以外の方のほうが多いのではないかなというようなメンバー構成になっていて、職種もばらばらという、自分たちで言うのもなんですが、結構面白い形で運営している団体であると思っています。社会人が比較的多いので、平日の夜や土日に活動しています。

団体の活動について少し紹介させていただきます。2017年ぐらいから活動を始めています。ですので、その頃は小学校5年生だった子も、来年から大学生というところで、結構長く活動してきたなと感じています。

始めた当初からやっている活動としては、自己紹介の中でも出ておりましたワークショップとか、ゲームというような形をやっていました。最初は船橋市を舞台にしたシミュレーションゲームといいますか、参加者の方に船橋市の幹部職員になり切ってもらって、自治体の財政運営というところをシミュレーションで体験してもらっています。対面でやるゲームになりますが、参加者で、カードや模造紙とかを使って、ワークショップのような形で楽しんでやってきております。

ゲームとかワークショップというものを通じて、いろんな方が幅広く、楽しくこの地域について考える場づくりというのをずっとやってきておりまして、これが主軸の活動になります。

つぎに、最近、コロナが明けてから新たに取り組み始めている活動がありまして、これが、どちらかというところ今日の主題になるのかなと思います。

今、こういう活動をしている中で、いろんな形で船橋市に関わり、地域にも参加したいというような方々が多いということを感じています。そういう船橋に関わりたい、船橋市の地域活性に関わりたいという方々と、既に船橋で活動されていらっしゃる、いろいろな市民活動団体の皆さんなどをつなぐような取組をしていきたいなと今年から新たに取り組んでいます。

それが、お配りしたチラシの『ふなボノ+』という名称でやっている活動で、船橋で地域活動をやっている団体の皆さん、ちょっとしたことをサポートしてもらいたい団体の皆さんと、我々のような現役の社会人であるとか、ちょっと自分のできることとか、自分の好きなこととか、自分の興味関心で地域や人に貢献していきたいというような、そういう方々をつなぐような取組をしています。

この取組はウェブサイト上で、サポートを必要とする団体が、「こういうことをサポートしてくれる方を募集したい」というような掲載をして、それを見た人が、「私、ちょっと貢献したいです」、「支援したいです」ということがあれば、手を挙げてマッチングするという形になっています。

この『ふなボノ+』を使って、我々ふなボノとしても、「こういうチラシを作りたいので誰か手伝ってくれる方、手を挙げてくれませんか」という募集をしたら、藤原さんから手を挙げていただいて、お手元のこういうすてきなチラシを作ってください。

そして、このチラシには、「本チラシもふなボノ+を通じて制作されました」と書いてありますが、併せて作成者の名前も載せることができるようになっております。

本日日出席の土谷さんも、この御縁でふなボノとしてウェブサイトを立て上げたいというので募集をかけたところ、「船橋ということで、とにか

く応募しました」ということで手を挙げていただいて、本当に優秀な方で、ウェブサイトをつくっていただきました。

このような形で、いろんな方々が自分のできることや自分のやりたいことで地域に参加していくというところの取組を増やしていきたいなと思っています。

これは、まだまだ駆け出しというか、始めたばかりで、市民協働課さんにも手伝ってもらいながら、団体さんへの周知を今始めているところになります。

ただいま、細かい具体的な取組の話をしてしまいましたが、今日は、もう少しテーマを広く考えて、市民の社会参加というところについて、市長とも一緒に意見交換ができたらうれしいなと思っております。

われわれは一人一人が生き生きと暮らせるというのもそうですし、生き生きと社会参加できる、地域参加できる、自分たちのまちを自分たちでつくっていくという感覚をみんなが持ってくれたら、もっとみんながハッピーになるかなという思いからこのような取組をしているところです。

私ばかりが話をしてしまいましたが、こういう活動とか、市民参加とか、まちづくりとか、地域活動に市民が参加していくことについて、まず最初に、市長のほうで何か思っていることとかがあれば、教えていただけたらと思います。

○市長

まず、皆さんがどういう人たちなのかなとすごい興味があって、今日、お会いするのを楽しみにしていました。

市民の社会参加という意味では、例えば高齢者の人たちのことも含めて、行政だけでは成り立たない社会だと思っています。いろんな人たちが、いろんな分野で活動していて、例えば農家の若手とか、ノリ漁師の人たちとか、普通の会社員の人たちとか、いろんな人たちがまた知り合って、これを市で6次産業化ってよく言っているんですけど、このような連携を行政がやらなくても、自分たちでやり始めている。

そういった人たちを、上原さんたちがどのぐらい知っているのかなと。あとは町会・自治会とかの評価も、ぜひ、皆さんに伺いたいと思っていました。市民の人たちをつなげたいという、これはすごい大事なことで、特にコロナのこの3年半ぐらいの間に、結びつきが非常に弱くなってしまい、様々なことができない状況が続いていました。

私は、船橋の一番の力は、市民力と言っているんですよ。いろんな思いの人たちが、いろいろな活動をしている間に知り合って、また自分たちで繋がっていくというところもある。

ただ、今一番の課題は、40代かな、これからの次のまちづくりの一番核になる人たちが、スポットでは積極的に参加してくれていますが、継続的な活動となると、やはり仕事が忙しくて、やり切れないみたいなどころがあるので、こういったいろんな人たちが、いろんなジャンルにアクセスできる環境をつかっていくというのは、これから市としても非常に大きなテーマであると考えています。

あとは、地域づくりとか、市民の人たちのつながりを、コロナの前にできていたものが、その中心となって頑張っていた人たちが高齢になり、「もう私は限界だから」という人たちも非常に増えていますので、それを次にどうやって再構築していくかというのが大きなテーマになっています。

いろんな人たちがいるので、多分、知り合うと、もっと面白い人たちがたくさんいるので、その辺の人たちとどうやって関わってもらえるかなということが、これからの楽しみでもあります。

市としても、市民の皆さんがいろいろな形で自主的に活動できたり、様々な活動などで知り合った人たち同士が挨拶ができるまちが一番望ましいことなので、人口が増えている分、そういった要素をどんどんつくっていききたいというのが、市としてというか、自分の考えになります。今までも経済ミーティングや、異業種の若手の知り合う機会などの場を設けてきましたが、それが私としては、次の時代のまちとしては一番大事かなと考えています。

●団体

- ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。我々がそういったところにまだつながりがないというところがあって、そこが課題となっています。もし、つないでいただけるような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

我々は、地域や人に貢献したい人とのつながりがありますが、サポートしてもらいたい団体の方との接点がありません。

今後は、さっきおっしゃった業種の皆さんとか、農家の皆さんとかに、これまでつながりがなかったそういった方々とどんどんつながってけると、本当に面白いだろうなと思っています。

- そうですね。つながりは大事だと思いますが、私は少し違った見方をしています。このプロボノワーカーというのは、もともと船橋に住んでいて、貢献したい気持ちはあります、いろんなスキルを持っていますという方が、どうしたら地域のために力を発揮できるのか。

いろいろ思いもあるし、力もあるのに、働き盛りなのに、どうしてそれがうまくいかないのかというと、多分、そういった方々が、この地域で何かやったときに、自分たちの力をどうしたら発揮することができるかという、そういう場が、あまりぱっとイメージが思い浮かばない。この団体だったら、私の力はこういうふうには発揮できる、この地域、この分野だったら、私の力がこういうふうには発揮できるというところが、地域の中で思い浮かばない。そういう自分の力を発揮できる場が幾つも思いつくようであれば、多分そこへ参加されると思うんです。

そうしたことから我々が団体と支援者がつながる仕組みとなる「プロボノ」のイメージを発信し、マッチングすることで、地域の一人ひとりの力を生かすことだと思っています。マッチングするということは、支援を受ける団体は、単に支援を受けるということだけではなくて、様々なスキルを持った方々の力を発揮する場を提供し、新たに一緒に何かをつくっていくものと考えています。

○市長

小谷さんにとって船橋はどんなイメージですか。

●団体

先ほど少し申し上げましたけれども、非常に多彩で、梨が有名で、そういう農家の方もおられれば、海もある。あとは東京に働きに出ていらっしゃる方は結構おいでになりますし、アンデルセン公園がある北部地区はかなり自然が豊かだという印象があります。それと、人口動態的には、まだ人口が増えていてということで、非常に可能性が大きいまちだなというふうに思います。

そして、市長がおっしゃったみたいに、その中で農家の方と我々はパイプはないわけですが、そんなところで何かお手伝いできることがあるのかとか、そういうことが可能性としてはいっぱいある、そういうまちだと思っています。

○市長

自分がずっと経済ミーティングとか、いろいろな若手の異業種を知り合いにさせるとかをやってきた中で、一番感じたことは、例えば農家の人と知り合うのは、畑を仲介にしているみたいなイメージがすぐ浮かぶと思いますが、実はそうではなくて、彼らも日常生活としては、農業の品質を高めるためにいろんな勉強をしています。

意外に素朴な場所、例えば「小松菜ハイボールを飲む会」とかがあります。

そういうところに行くと、船橋だけではなくて、松戸とか、都内の人も来ます。そして、会社員の人がいれば、農家のメンバーもいたりして、その場の雑談の中で人がつながっていくということがあります。

多分、そういう形のほうが、その後の展開は物すごいスムーズになると感じています。オフィシャルな形で、お互いに知り合ってディスカッションしましょうという、やっぱりテーブルの上の話になってしまって、人間としての話ではなくなってしまう感じがするんです。

ですから、何かの機会にそういったところにも時間を見つけて、その飲む会なんていうのは誰でも行けるので紹介しますから、行ってもらえれば、「今日ちょっとしゃべらせてください。」と言えば、絶対そういう場面をつくってくれるので、そうすると、みんなが興味を持って、「こんなことをやりたいんだけど何ができるの」みたいな形でつながっていくのがいいのかなと思います。

あと、行政的に言うと、市民協働課のメンバーもおりますが、市民協働課がいろんな相談を受ける中で、私が知らないだけかもしれませんが、どういうスキルがあるのかというメニューが分かっているとつなぎやすいと思うんです。

ですから、市民協働課をはじめとする関係課や他の行政機関などともコミュニケーションをとりながら、多分一番強いのは、アナログで知り合うところが非常に大事なような気がしますので、そういう機会を逆にこっちから紹介をして、上原さんとか、いろいろなメンバーの人たちが入り込んでいくという形を、最初はとってもらおうと良いのかなと思います。

その形ができると、活動が口コミでみんなに伝わっていくので、「それをやっているんだったら、ふなボノってあるから、あそこに聞いてみたら」というふうにつながっていく、そんな気がします。

●団体

- ありがとうございます。
- ちょっと別の思いつきの話をしてもいいですか。

○市長

どうぞ、どうぞ。

●団体

自分のことを振り返ると、日産自動車で働いておりました。先ほど40代というお話がありましたが、40代の頃、地域のことを何かやろうとは全く思いませんでした。

あと、小学校まではずっと市川市でしたが、中学からはずっと東京なので、周りに市川市の知り合いが全然おりません。あるとき、やはり地元が大切だなと思って、50代になってからですが、地域のことをやり始めてから、市川市の知り合いがたくさんできたということで、40代のときに、働いていると、何かやろうというのは難しいだろうなと思いました。

また、最近は、SDGsとかで、企業の姿勢も変わってきていて、最近も相談があったのですが、ボランティアデーみたいなことをやるので、ボランティ

アを受け入れてくれるところを幾つかリストアップして、そこに、それぞれ社員が選んで行くという日をやりますという話が、それは結構大きい会社なんです、数社からありました。

このような状況から、企業側も結構変わってきているのかなという感じがしています。このような動きを利用して、船橋市に本社がある企業とかと市で連携して、例えば、ボランティアデーの設定などを提案することで、何かやりたいと思っている人の、どこへ行ったらいいか分からない、仕事が忙しくて行けないとかというのがあると思うんですね。

船橋だけでなく、市川市でも、団体の中で高齢者が多くて後継者がいないとか、そういう問題も多発しています。若い人を呼びたいんだけど、若い人は忙しくて来てくれないというようなのが多いので、そういう何かうまいやり方が、もしかしたら全体的に変わってきているので、何かできないかなというのを、思いつきで言ったんですけど。

○市長

いいえ、それは面白いかもしれないですね。船橋でボランティア募集ページみたいなのをつくって、「いついつ、こんな手伝いしてくれる人がいたら、お願いします」みたいな、ウェブの中で、そこだけワンクリックしたら、いろいろなものを探せるというのもいいかもしれない。

ボランティア的な活動をしている団体も結構あるんですよ。「まるごみ」とかって、月最低1回、あとはイベントのときに、学生と社会人が一緒になって、本当にごみ拾いをやるんですよ。「まるごみ」って書いているビブスを着てやるんですけど、そこでつながった人が、例えば自分たちがやっている演劇のところに仲間に入ってくれとか。

そんなこともあったりとか、いろいろなボランティアを求めているところがあるので、これはまた市民協働課とも相談してみます。そのアイデア、今、「夏のボランティアマッチング会」は、あれはあれで中学生の提案で始まったんですけど、それも全く同じことだったんですよ。ボランティアをやってみたいんだけど、どこに行ったらいいか分からないというマッチング会というのを市民協働課がスタートして、10年近くなります。

今度、その日常版、成人向け、子どもたちも含めて参加できるというやつがいいかもしれないですね。それはちょっと検討してみます。

中澤さんは、商店街の支援をやっていらっしゃると、さっきおっしゃいましたね。実際にやってみて、船橋も商店街で、まちの地域の経済活動だけではなくて、福祉の面で支えていかなければいけないんですけれども、元気なときは大きいショッピングセンターに車で行ってしまい、地元で買わないから、どんどん商店街のお店が減ってきてしまう。

車の免許を返納した瞬間に地元で買おうと思ったら、お店がなくなっている。だから、商店街は福祉の観点でも支えていかなければいけないんですけど、具体的にやってみて、こういうのはよかったなみたいなのは、何かありますか。

●団体

商店街の皆さん、理事の皆さんは、実は一人一人は事業主なので、すごい話が早くて、商店街をどう活性化するかというのは、すごく一生懸命やられてはいるんですけども、結局、商店街の皆さんって、生活のリズムとか、商売をやっていますので、そういったことがなかなかできない。時間的にも、自分たちの目的化できないので、実際はそこに、ほかの団体と組まないとできない。

空き店舗を商売に使わずに、そういったことで使いましょうとか、3年とかやるんですけども、結局、自分たちで運営がし切れないというのがあって、実際は福祉関係とかの団体と組んでやらないと、結局は長続きしないという問題があります。

○市長

ぜひ高校生ぐらいの感想も聞きたいと思うのですが、加納さんどうですか。

●団体

40代の人たちって話をしていたんですけど、私がここに参加した頃、ちょうど母は40代ぐらいだったので、多分ちょうどそのくらいの子どもの親は皆、40代に当たるのかなと思うのですが、パートだったり、地元で働いていたら、そのお母さん同士のコミュニティーで地元の活動とかに触れることは

あると思います。しかし、私の母とかはここら辺で働いているわけじゃないので、あまり地元のことを知らなかったんです。

私を通して、こういう活動とかに参加しているので。逆に、お父さんとかは大体東京のほうに行っていたりして、働いている方が多いと思います。子どもたちは地元の学校に通うので、子どもを通して地元のことを知ることが多いんじゃないかなと思って。

子供のときって、遊ぶこととかに夢中だったり、学校に貼ってあるもの、ポスターとかしか、あまり興味を持って見たりしないし。あと、お祭りとか、公民館とかの楽しいことをメインに触れていたりしていたので、そっち方面のことに关しては、お母さん、お父さんはすごく知っているんで、子どもが興味を持つことだったら、どんどん子どもを介して、お父さん、お母さんも地元のことを知っていけるのかなと。

お母さんとか、お父さんも休日にするのがなかったりしたら、こうやって貢献したいなという思い、私の母もちょうどそれで、地元のことを知っているけれど、何も、どうしたらいいんだっていう状態から、私が記者としてここに参加したときは、たしかフェイスブックで見つけたんですかね。そうやって参加し始めたので。

そうですね、子どもを通して知るということを重視すると、大人だけじゃなくて、子どものほうにもアプローチするといいのではないのでしょうか。

○市長

それは、すごい大事だよね。船橋市は引っ越して来る人が非常に多いので、やはり、その一番のつながりは子どもを通して知り合うというところが物すごい強い。

子供たちのふるさと意識、船橋で育った意味というのを感じてもらう教育というのを、教育委員会、教育大綱に書いてあるんですけど。その辺で、それをまさしく部活もそうだし、今言ってくれた公民館の夏休みの講座とかもそうだし、子どもたちにどうやって伝えていくかということもすごい大事ですね。

●団体

■ フェイスブックで調べるってなかなかないかもしれませんが、でも、夏のマッチング会で僕たちも出ていて、中学生が何人か手を挙げてくれて。ちょうど来週ですが、そのイベント本番があって、中学生が来てくれるんですけど。その場に、お父さん、お母さんもぜひ一緒に来てくださいとか言うと、親もそういう機会につながっていけるとかするのかなと思って聞いていました。

■ 土谷さんは、ウェブの関係は本業ですか。

■ いや、日用品のメーカーなんですけど、自分はIT部門に所属しているので、ある意味本業でもやってはいますね。社内的にも、人をどうやってつないでいくかというのはすごく課題で、社内のことなので、廊下だけ、一部ちょっと狭くして、挨拶しないと擦れ違えないようにしたりとか、そういうことをやっているんですけど、それってバリアフリー的にちょっと問題だと思っているんですけども。

今までの話を聞いていて、各小学校に父親委員会ってあるじゃないですか。だから、40代の多分もうちょっと手前の世代の人たちが、そこで物すごい強固なつながりを持っているんですよ。楽し過ぎて、子どもが卒業してもやめない人とかもいるじゃないですか。ただ、残念ながら、その小学校の枠を超えることはなかなかないのかなというふうに思うんですね。

○市長

そうですね、八栄小学校という、駅のちょっと北に行ったところなんですけど、今日、まさしく小学生の防災お泊まり会をやって、防災倉庫の中から物を持ってきて、どんなものが入っているかというところからスタートして、今日は泊まって、やっぱりお父さんの会なんです。

OB、子どもは卒業しているけど、ずっと付き合っているという人のつながりがあったり。だから、さっき言ったように、いろんなアクセスの仕方があると思うんですよ。それを行政的には広く呼びかけるということが1つの前提にはなりますが、ふなボノの皆さんがどこかにつながっていくと、人と人は一人で生きていないので、必ずつながっているから、そういうのを積み重ねていくと、急がば回れでいいのかなという感じはしますね。

藤井さんは、ふなボノはやっていて、どんな感じなんですか。

●団体

- そうですね、ふなボノ、私も市民活動に参加したきっかけも、まず参加者側で飛び込んだからと。私、今もそうなんですけど、例えば藤原さんのように、これができますというスキルがあるわけではないけれども、ただ、コミュニティーに飛び込んで、人とつながりができたから、今こうやって活動する場を得ているかなと思っていて。

まず、何かやっている団体に入ってみる、自分が何ができるか分からないけど、入ってやってみるとか、知ってみる。そこでつながりができるとで、それが継続していけば、何か自分のターニングポイントがあって、自分がサポートする側に回れる機会もあるかも知れないなと思って。

自分のふだんの職場であったり、学生さんであれば学校であったり、それとは違うコミュニティーに入るきっかけが持てる場があれば、よいのかなと。それが何か、具体策があるわけではないですけど、例えばふなばし市民まつりですとか、あと、ふなばしミュージックストリート、近々開催しますけど、そういう気軽に参加できる場から、団体を知る何かきっかけがあったりすれば、何かアピールを持っていない人でも、流動性が生まれるのかなと思ったりしています。

- 私はグラフィックデザイナーなんですけども、そもそもふなボノさんと知り合ったきっかけというのが、ウェブ上のサービスで、こういったNPOさんとか団体さんと、あと私みたいなスキルを何かしら提供できる個人がつながって、1つのプロジェクトに取り組んでいくというようなオンライン上のサービスがありまして、それを私が調べて、ああ、こういうのがあるんだと思って参加したのがきっかけだったんです。

私がそもそも、そういう活動に参加しようと思ったのが、大学的时候に、芸術系の大学に行っていたんですけども、大学の研究室の教授が、そういったデザインを通して社会貢献をどのようにやっていくかという活動をされている方で、その方の講義というか、授業を聞いて、ああ、デザインって、ただ物をつくるだけ、クリエイティブだけじゃなくて、そのクリエー

タイプの先に何かを提供できたりとかということがあるんだなと思って、それにすごい感銘を受けて、私も将来そういった活動ができればなと思って、今こういう活動しているんです。

なので、そもそも、私みたいな一個人というか、市民側がそういった活動ができるんだということを、まず知らないことのほうが多いのかなと思って。例えば、さっき加納さんとかがおっしゃっていたように、学校の授業とかでそういう団体に参加しなくても、つながったりとか、支援をしたりとか、そういったことで、よりよい船橋に、よりよいまちづくりになっていくよ、みたいな、何かそういうのを教えてあげられるような場があったら、すごくいいのかなと、ちょっと思っていました。

○市長

加藤さんは、今ふなボノをやっている中で、行政に生かせる点みたいなところはありますか。

●団体

行政に生かしたい。さっきの市長のお話を聞いていて、農家さんだったら、農家のこと、自分のこととかを考えるんですけど、やはりそれをちょっと超えたところとかっていうのが言い出せなかったり、言えるのかが分からないのかなと。

でも、農家の人にとって当たり前のことだけど、もしかしたらほかの人にとってはすごい有用なことをかもしれないというのをつなげたいというのは、本当に今日のこの作っているチラシの、「あなたの普通は誰かの特別」というところかなとは思っているので、行政も縦割りと言われますけど、自分の本業でも、ちょっと足を出したところ、そこの境目を超えて何か少しチャレンジしてみたりとか。

それは、当然一個人として、ちょっとオンラインで知ってみるとか、そういったところを、オンラインだったり、さっき市長がおっしゃっていた、実際リアルにやってみたりとか、その辺はオンラインでも、リアルでも、ちょっとつながりを持ったり、あとはリアルで、この人はオンラインだったりとか、そう

いう垣根を超えた、ちょっと歩みたいなところをやっていけるといいのかなと思っていました。

それが自分が行政をやっているけども、外に一步飛び出して、こういう市民活動をやっていることになると思いますし、それは本当、ふだん、さっき働いている40代の方で、本当に仕事と家の往復みたいな方も、もう一步踏み出した、学校だけれども、子供の生活とかも、ふだんよりも子供を介した一步先なのかなと思うので。

何かその辺をもう少し、一步踏み出すと、やっぱり気張っちゃう気がしますけども、その辺が全然、ちょっとやってみようみたいな雰囲気とかは、社会全体でつくっていくと、もう少し、さっき市長がおっしゃった、皆さん一人一人の力がもっと発揮できる社会なのかなと、聞いていて思いました。

○市長

さっき、ミュージックストリートの話もしてくれましたけど、船橋って、冬の2月ぐらいに1,000人の音楽祭を、演奏者だけで2,000人近くなるんですけど、そういう音楽祭をやっていて、それを完全に実行委員会の人たちがずっと運営してきているんです。

どっちかという、器の中で、船橋はオーケストラとか、いろいろ日本一になったりとかしている子たちもたくさんいるので。そのもう一方で、ミュージックストリートというのを、だから、ストリートミュージシャンのやる場がないというところからスタートして、やって、そっちは本当に応募や何かでやるんだけれども、ミュージックストリートの実行委員会を最初に立ち上げたときもすごく面白くて。

演奏する側の人間たちが、まず企画をしたら、別のふだんの、自分としては演奏する側ではなくて、聴く側の人間がそれに一緒になったときに、ガチンコ勝負になっちゃったんですよ。要するに、演奏する側は、どういうふうにやったら、いい環境で演奏できるかと言って。

片側、片一方から見ると、いや、それは聴きにきた人たちが楽しくないよと言って。それで、すみだジャズフェスってやっていて、そこに実際に一緒にボランティアで入って、初めて、ああ、こういうことねと言って、すごい仲よく

なったんですよ。一緒にやっている中で、今のミュージックストリートの形ができたんですけど。

だから、立ち位置を変えて、いろんな人たちが参加していけるような取組というのは、とてもいいんじゃないかなと、皆さんのお話を聞いていて思いました。

だから、私の希望としては、私が会う若手のメンバーから、ふなボノという単語が出てくることを楽しみにしています。いや、これ、すごい大事なんです。これ、冗談でも何でもなくて、「ふなボノの上原さんてさ」という言葉がどのくらい出てくるようになるか、これが、ふなボノとしての活動が広がるかどうかの結構大きなファクターになるので、そうなってくれるといいなと思います。

ミュージックストリートなんかも、ボランティア募集で、この間の夏のマッチング会するとき、50人ぐらい、子どもたちが参加してくれるようになったんですけど、あそこって、すごい面白いのは、小学生から70歳超えの人まで、ボランティアで入っているんです。それが、小学生と70歳ぐらいの、本当におじいちゃんと孫みたいな関係で、まちの案内をしていたりとか。

一日一緒にやっていると、すごい仲よくなっちゃうんですね。だから、そういうところに、ぜひ足を踏み入れてもらって、行っている人たちに、ふだん何をやっているのといったときに、実際、こんなことをやっているんですよという、それが結構いいかもなという感じがします。

●団体

おっしゃるとおりだと思います。本当、頑張ります。

○市長

いやいや、あまり気合を入れて頑張っちゃうと、疲れちゃうから。楽しみながらじゃないといけないんで。知り合うって、結構楽しい。生理的に合わない人も当然いるんだけど、でも、100%嫌いな人はいないから、そうすると、いろんな全然知らない人たちがまだこんなにたくさんいるんだと、そういうのを知ることができるので、ぜひ皆さんに頑張っていただければなと。

●団体

鈴木さんが、横浜開港150周年のイベントに出られたんです。それは何かというと、ワールドカフェという話合いの仕方で、横浜市が550人市民を集めて、これからの横浜はどうしましょうかというふうなところを、話し合ったと。

そのワールドカフェで550人が一堂に会して、物理的に同じ場所で話をしたということ自体で、私はそこは出ていないんですけども、盛り上がって、その後も、そこで出会った人たちが自主的にワールドカフェで話し合おうとか、そういうのを続けていったという話があつて。

たまたま、その同じワールドカフェの場において、この団体を立ち上げたいと言って、ワールドカフェ専属の団体をつくろうという人が、米国の本拠のワールドカフェの団体と提携して、7月に団体を立ち上げて、私も声がかかって一緒にやっているんですけども。

そういうふうな形で、音楽という媒介ももちろん素晴らしいですし、ほかの領域で活動されている方も含めて、知り合うと、その後でまた盛り上がっていくというふうなことができるかなという感じです。

○市長

そうですね。とにかく、ジャンルにこだわらないで、知り合っていくというのが一番大事なような気がします。

●団体

■ 今の横浜のイベントのすてきなところは、集まって、横浜のために何をやるかを考えようじゃないですよ。横浜の好きなところを話しましょうって、横浜の魅力は何だろうというのを、みんなそれぞれが話すという、そういう場だったので、別にそこから何か、自分たちがこれをやろうかというところまで誘導されたイベントじゃなくて、好きなところを話すというイベントだったんです。

でも、好きなことを話しているだけで、何か一緒にやろうかという雰囲気になっていくというのが1つ。ちょっと余談ですけど、それに出たので、

何でも、まだそのときに横浜に会社があったので、出たんですけど、何でも横浜でやって、市川でやっていないのかなと思って、市川でいろいろやることにしたんです。

そのネタが好き。船橋の魅力だけを話しましょうみたいな、そういうのでいいんじゃないのかなと。それだけで、さっきおっしゃられるように、いろんな人が知り合うとか、いまだにそのとき知り合った知り合いとかもいっぱいいますけど、本当に不思議なことにつながるんですよ。

■ 本当に、やっぱりそういうイベントって大事だなというふうに思っていて、なかなか加藤さんがおっしゃるとおり、みんな本業を持っている中で、本業からちょっと踏み出そうというときに、割とエネルギーが要るというか。すごく明確な目的を持っている人がいれば、それができると思うんですけども、僕らも船橋に足は置いてはいるけれども、ほかに本業があったりする中で、何か、時々イベントとなるもの、みんなでそこに向けて頑張ろうというところを置いていかないと、続いていかないとあるかなと思っています。

なので、そういうような、何かイベントというのはやっぱり置いていきたいなあというのは、すごく思いました。

○市長

そうですね。

●団体

市民活動って、自分がずっとそうだったんですけど、何かやらなきゃいけない、何か自分が得意なことをやりましょうという、もちろんそれも大切なんだけど、イベントに参加するだけでも、僕は市民活動じゃないかと最近思っています。

例えば私たち、ふなボノの活動でも、お客さんが来てくれるだけですごいうれしくて、活気づくんですよ。何かやらなきゃいけないから、自分が得意なことをやらなきゃいけないと、やることが市民活動だけではなくて、イベントがあったときに参加するだけでも市民活動なんだという、貢献しているんだと。

どうやったらそう思ってもらえるか分からないですけど、そういう形にすると、そういう雰囲気になるといいよなあと思って。

先ほど、これは余計なことを言っちゃいますけど、ふなボノの名前が聞けるようになるといいとして、この人がみんな参加してくれればいいんですよ、市の人が。

○市長

でもね、それは違うんですよ。私が求めているのは、ごく普通に生活している船橋市民の口から。役所の職員は、もう多分ここにいる人間たちはふなボノは十分、今回で。

●団体

でも、参加することに意義があるんです。

○市長

そうなんです、お互いに。だから、市の職員のボランティア活動も当然大事だし、あとは、お互いに参加し合えるみたいな。さっきおっしゃっていたように、やはり楽しくないと続かないので、年に1回、このイベントをやると。イベントをやるのって結構大変なんだけど、それが何か1つ、毎年これもあるよねというものをつくり上げていくって、結構大事かもしれないですね。

私は思うんですけど、宝島みたいな話だよと。だから、自分の興味で穴を掘っていったら、絶対好きなものを見つけられる。これ、船橋だけではなくて、ほかの自治体もみんなそうだと思うんです。だから、みんなそれぞれいいものがあるって、みんなで、さっきおっしゃっていたように、自分の大好きな宝物がどこにあるんだというような感覚でやっていったら。

それで、お互いに今度、自分たち同士で知り合っていったら、物すごい広がりができるような気もするんです。

まいぷれを使っているのは、何かの繋がりですか。

●団体

- 何かのきっかけでつながって、そんなスペースがあるんだというのを、あまり知られていないようなんですが、すごくいいスペースなので、毎回使わせていただいております。
- 我々のイベントに参加してくれたのか、何でしたっけ。
- 何か、気が合って。

○市長

それ、大事です。上原さんは、船橋というところでこれを始めたきっかけは何かあるんですか。

●団体

きっかけは、加藤さんとかと知り合ったという御縁が一番大きくて。

○市長

それで知り合ったところがスタートになった。

●団体

- たまたま、藤井さん、中澤さん、加藤さん、小谷さんが、最初からずっといるメンバーなんですけども、みんなで船橋で集まっていたんですね。船橋を舞台にしたゲームをつくろうということで盛り上がっていたところで、そこからですね。

家が近くないような方々もいるんですけども、ずっと船橋でいろいろやっている形ですね。

- 日清食品さんも借りたこと、ありますね。
- ああ、そうですね。

○市長

日清食品の今の社長、若い頃、非常に面白い。

●団体

いいスペースですね、すごく。

○市長

いいスペースですね。ちょっとコロナでできなくなりましたが、前は、あそこで音楽会をやったりとか、若手のアーティストたちの活動場所がないって。

●団体

本当に、私のことはいいんですけども、そうですね、まだ本当にふなボノは、やっているといっても、まだ六、七年ぐらいの団体で、この「ふなボノ+」というのも本当に今年、コロナ明けで立ち上がったばかりで、実はこれからの団体です。

若い世代、10年後の代表、20年後、30年後の代表もいるので、持続可能性はある団体かなと勝手に思っているんで、これからも定期的にとってはおかしいですけど、また10年後と、こういった機会も踏まえながら、市役所の方とも対話しながら、なるべく長く、ちょっとだけ大きく育てたいと。

○市長

ぜひぜひ。ずっと職員に言っているのは、コロナで人に会わない仕事のやり方にみんな慣れてしまった。だから、今ずっと言っているのは、こっちからアクセスしていかないと、本当の声は聞けないので、みんな何となく机の上でやっている、形はきれいにつくれるけど、本当に関わっている人たちの気持ちと少し離れちゃっているようなときがある。

「これ、あの人が、何て言っていた」と聞いたら、「聞いていません」とか。

「このことやるのに、あの人の意見を聞かないで計画をつくっちゃったの」、みたいなところがあるんですよ、行政のほうが。

だから、今日みたいに、ふなボノの皆さんみたいな人たちと、市民協働課も関わってもらいましたけども、今日、こういった企画を。

企画も絶対、こういう人たちの話を聞いたほうがいいという話で、すごい大事なんですよ。いろんな計画は幾らでもきれいにはつくれるんだけど、実が出

てくるような計画にするのは結構難しくて、実は非常にいびつな計画のほうが実態に合っているみたいなどころがあるんです。

ただ、それは議会で鋭く質問されると、答えに窮してしまうのですが。

でも、それが大事かなという気がするので、ぜひ、いろいろ市民協働課も含んでやってもらえればなど。

●団体

■ 今日はすごく激励をいただく会になったなど。

■ おっしゃったように、行政の方は、やっぱり公正中立というのが大原則におありになるんで、だから、どういうプロセスでこの企画をしましたとか、どういうプロセスでこことつながりましたというのがすごく問われるんですけど、我々はフリーなので、たまたま飲みに行っただけで知り合いましたから、この人とやりますというのが通じるというのが、我々の強みとか、面白みだと思うんですね。

■ 本当に、今日お話ししていて、子どもの話とか、市長からお話のあった70代と若手がボランティアにつながるとか、老若男女問わずいろんな方がいて、本当、可能性がある船橋だなど思うので、確かにリアルで会ったほうが、顔が分かる。

今日も、皆さんと顔を合わせられてお話しできることがやっぱり大事だなと思いますので、リアル、オンライン問わず、老若男女問わず、いろんな方と出会ったり、いろんな方に知ってもらって、つながっていきななと思いました。ありがとうございました。

■ 皆さんの話を聞いて、もっと人が行く場所で、そういうイベントをやりたいなとか、いろいろ未来の構想を考えて。ポスターが、それこそ市役所とかに貼ってあるけど、居酒屋とか人が長居できる場所に貼ってあったほうがいい時間もあるとか。

あと、公民館は公民館でも、子どもは、市役所とか、大きい場所のところにあんまり行かないから、もっと地元で根付いた場所にあったほうがいいとか。大きい場所だと薄まってしまいうから、もっと地元、それこそ公民館レベルの小さい地元で何かやっていたら面白そうです。

私、図書館に行くようになってから、いろんなイベントをやっているなと感じていて、そういうところでやってみたら、結構子どもたちも来てくれるかなとか、ずっと同じことを考えていました。

- 将来、ふなボノがこの先も安泰だなという気がしました。
- もうちょっと人を呼べるようにするにはどうしたらいいかなって。
- 増やしていきたいですね。
- 小ちゃい子を入れていきたいですね。
- みんな、つながることとか、すごく好きなので、いただいた意見も踏まえて、我々も人が出るところに、外に出ていくみたいなこともしていきたいなと思いますし、今あったように、人がいるところでやっていきたいなと思いますので、また市長の耳にふなボノの名前が届いたらいいと思います。

ありがとうございました。

○市長

どうもありがとうございました。

(事務局)

これで、ふなボノ様と市長とのまちづくり懇談会を閉会させていただきます。

—— 了 ——